

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		お年寄りに対して、家庭的な雰囲気の中で、心と耳を傾けて個人を大切にしてお世話をする。地域の中の一軒の家として溶け込んで、お付き合いをする。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		時代や地域の特徴・利用者などによって移り変わっていくものと理解している。そのため理念を作って終わりではなく、管理者や主任・職員や利用者の意見などを取り入れながら定期的に話し合い、必要に応じて見直しや変更をしていく。時には運営推進委員会で取り上げ、協議していく事も必要と考えている
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		一つ一つのケアの場面で、理念に基づいた行動が出来るよう確認しあっていく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		利用者や家族には口頭及び文章にて説明している。また地域の方々には毎回広報誌に掲載し発信している。また家族懇談会や運営推進会議でも説明している
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		当ホームを取り巻くすべての方々に対して、あらゆる機会を通じ啓発していきたい
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		広報誌等で情報発信やボランティアの呼びかけを行っているが、立地条件(病院・施設と同じ敷地にあり、一般民家と距離がある)の影響もあり、不十分である。しかし年数回ではあるが保育園・小学校の訪問があり、交流や援助・挨拶などを頂いていて、少しずつではあるが交流の機会が増えていて、進展が見られる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		今年、六日町のホテルご招待を受け、ボランティアによる演劇などの鑑賞・食事会に行っている。また地域の夏祭りの神輿見学などに参加したり、近隣の保育園にて園児たちと交流会などを行っている。月に1回程度ではあるが、地域の店に食事会に出かけたり、行きつけのスーパーや理・美容室とは顔なじみで、色々融通して頂いている。
			毎年課題に上がっていることであり、長い間の課題である。時にはこちらから出向くなどして交流のきっかけをつくり、日常的な付き合いが出来るよう引き続き努力を続けていく。
			大巻地区福祉教育推進地区支援事業の運営委員に参画して、子供たちとのふれあいの拠点となっている。また地域の方から、気軽に立ち寄って頂けるよう、当施設で年4回発行している、グループホームたよりやパンフレット等を使い発信している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年度まで、当市では認知症ケアモデル2ヶ年事業をしていたが、現在は特に行っていない。しかし今後も地域や行政の要請等には協力したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価前は1年の振り返りの良い機会でもあるため、その意義や改善部分の検討なども含め、話し合いの機会を設けている。評価後は、すぐに改善出来る点は指摘事項を活かして対応し、時間の掛かるものなどについては、不十分ではあるが地道に改善を行っていく。		今後も外部評価の意義を理解し、より良いホームの運営のため生かして行きたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者側からは、利用者様の健康状態や様子・行事・研修・サービスや職員の状況等を随時報告している。委員の皆様からは、利用者様・家族・地域住民などの視点で貴重な意見を頂き活かしている。また時折、介護保険関連の情報や他のホームからの情報なども提供して比較するなど、適正な運営に努めている		今後も運営の細部に至るまで議題を挙げて内容の充実を図りたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員メンバーである包括支援センター職員と運営推進委員会で意見交換している。また市役所担当部署とは運営上の相談などで随時、連携している。また自己・外部評価の結果や広報等を配布している。また市主催の地域密着型サービス事業者会議へ管理者や計画作成担当者が出席し情報交換している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市主催の左記研修会には、勤務等の都合にて参加できなかったが、同法人で参加した職員から資料を提供して頂き、自己学習などを行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の研修会へ参加している。参加できなかった職員については、伝達講習や資料で伝達している。また母体施設(越南苑)での研修があれば参加したり、報道などがあればそれについてミーティング時に意見を交わすなど、意識を高めたり自己学習している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、利用者様・ご家族様同席のもと、入居から退居に至るまで運営規定や契約書を用いながら説明し同意を得ている。また利用料や貴重品管理・緊急時の対応・退居後のサポート体制などは時間を掛けて説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様からの不満・ご意見・苦情などについては、お茶の時間等でお聞きしているが、内容等によっては自室で個別に聞くなどして話しやすい雰囲気作りに努めている。またご家族については、面会や電話・ケアプランの更新の際に、ご意見を伺い対応に努めている。</p>	<p>時間帯にこだわらず、いつでも利用者様が気軽に話せるように、今後も雰囲気作りに努めたい</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的には、家族へのお手紙を出して、利用者様の生活の様子を伝えている。貴重品管理については、出納帳・領収書を添えて同封している。急な相談等については随時行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者委員を設定して、ホーム内に掲示している。また、ご家族の方が直接職員などに言いやすいように、関係を密にしたり雰囲気作りに努めている。</p>	<p>意見や不満・苦情等は何時でも受け付けています。今の所ありませんが、今後も些細な事でも真摯に受け止め対応していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月第1木曜日を定例会議日としている。その際に、幅広く職員の意見を聞き、対応している。また、それ以外にも毎朝の申し送り後のミーティングでも、自由に意見交換をしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>予め予定されている行事・受診・外出外泊等については、可能な限り勤務調整している。利用者様中心のシフトを組む努力はしているが、職員の生活の質を確保できなと、良い介護も出来ない為、その関係上、調整には限界がある。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年、3月末職員1名が退職。4月より1名、他部署より移動があった。その都度、利用者様に説明し、その後、ご家族に毎月発送する手紙などにて伝えたり、運営推進委員会でも紹介をしている。特段、利用者様やご家族様が混乱した様子等は無かったと思われるため、ダメージを受けなかったと考えている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>マニュアルは整備され、職員の周知は図られているが、適時、見直しが必要と考えている</p>	<p>ヒヤリ・ハットなどの事例を通じて見直しを随時行なっていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の職員の経験・能力等には差異があるため、日々の業務の中で、場面ごとにアドバイスなどしている。市内で開催される外部研修には出来るだけ参加させ、後日、参加できなかった職員には伝達講習や資料の配布などを行ったりしている。また年数回ではあるが、併設施設の研修会にも参加している。</p>	<p>年間の研修計画に基づき、内部研修を実施したい。また職員の要望する内容なども、タイムリーに対応して行きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域でのグループホーム連絡会があり、定期的な情報交換や研修会などを行っている。研修会参加すると、他のホームでの取り組みを参考にしたり、意見交換したりして刺激になっている。</p>	<p>今後もこの会に参加し、情報交換や職員同士の交流の場にしたりして、職員の自己研鑽やモチベーションの向上に役立たせたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスは、最終的にケアの質の低下など様々な問題を招くと考えている。そのため、適正な労務管理や労働条件の整備に努めたり、日常的に自由に意見を言えるようミーティング以外でも随時言えるような体制にしている。また、当法人の親睦会行事や各種のクラブ活動にも参加できるようになっている。</p>	<p>今後も働きやすい環境の整備に努め、希望や要望にも柔軟に対応する姿勢を続けていく。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の経験や能力等に応じて役割(業務内での役割・行事の担当など)を担っている。また、資格取得への相談・支援なども行っている。</p>	<p>やりがいのある職場作りを今後とも、職員と話し合いながら作り上げて行きたい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の申し込みの段階から、利用者様ならびにご家族様の意向などに、耳を傾ける努力をしているが、ご家族の意向が優先されることもある。その様な場合の利用者様には、ゆっくり時間をかけながら傾聴を続け気持ちを汲み取る努力をし、関係作りに留意している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前の訪問や面接の際に、意向などに耳を傾けている。入居後は面会や電話連絡の際に、その都度意向などを聞き対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直近の情報を、利用者様・家族・相談員・ケアマネージャなどより、その都度頂いている。特に、ご本人様の心身の状態や生活環境、医療関係の情報は重要になるため、こちらから情報を集めている。		初期の段階では、十分な対応が出来ないことも予想されるため、今後も気になる事は、積極的に情報を集めていく
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんか馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前、少なくとも1度は訪問してご自身の目でホームの雰囲気や様子を確認したり、他利用者様と会話するなどして、1～2時間は過ぎて頂いて。また入居後2週間程度「お試し期間」を設けたりして対応している。利用開始直後は、出来るだけ本人様の生活習慣で過せるよう配慮し、ご家族の方への報告も随時行ない、不安などの解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人の個性や生活習慣を尊重しながら、本人の持っている知識や能力を生かせるよう、役割を持たせながら一緒に作業している。特に季節の料理や味付け・掃除・地域の行事では、主体性を発揮している。今後も楽しみや生きがいを持って生活できるよう寄り添いながら支援していきけるよう努めていく。		年々、年を取ると共に徐々に心身の低下が見られ出来ないことも増えているが、利用者様が今行なえる事を支援し、生活を通じてリハビリテーションを行なって行きたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会などがあった時には、「～を楽しんで行っていました」「こんな事が出来ました」など、様子をその都度伝えている。また協力していただける範囲で、本人の私物の買い物や外出・外泊をお願いし、預けっぱなしにならないようお願いしている。時々、家族間(実子、義理の兄弟など)で、考え方や捉え方などに違いを生じる事もある。その際は、身元保証人を中心に調整を取りながら対応している。		ホームで行える部分と、家族でないと出来ない部分をわきまえる必要があるが、ご家族の負担にならないよう協力を要請しながら運営していきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	同上		同上
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的ではないが、買い物や外食などのドライブがてら、自宅集落の訪問などを実施している。またご家族の方が、外泊などの際に、近所や親戚の所に、顔出しをしてくださる方もいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	小グループで、尚且つ部屋が近いゆえに利用者同士の干渉や認知症による様々な問題が起き易い。常日頃、利用者様同士の、会話の内容やしぐさなどを良く観察したり、中を上手く取りまとめたりしている。どうしても上手くまとまらない時には、テーブルや部屋の位置関係など調整したり、速やかに対応に当たっている。		狭い空間の中、利用者様同士の関係をうまくまとめるには、やはり職員が、中を取り持つようにしないと行けない。今後も皆様に気持ちよく生活を続けて行ける様に、職員もスキルUPは欠かせないと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者様が他の施設に移られた時は、時々面会に行ったりと、差し障りのない範囲で関係性の継続を続けている。また買い物の際などに、ご家族の方と、バツリ出会うこともあり、近況を伝えてくださる事も時々はあるため、退居後も良好な関係が継続されているように考えている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会やケアプラン作成(更新)の際などには、利用者本人や家族を交えて、意向などを十分把握した上で、ケアプランや日々の対応を細かく変更し、対応を続けている。認知症などにより意思表示が困難な方については、日々の様子などから情報を集め、申し送りや会議などの際に、検討し対応を考えている		思いや意向は、年齢を重ねたり家族構成・環境などが変化すると、それに合わせて変わって行くを理解している。引き続き、利用者様やご家族様と良好な関係を築きながら、言葉にならない思いなども把握し対応していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や利用者様やご家族の方から、頂いた情報は、ほんの一部でしかないので、より良い生活をして頂けるよう、気になる事があつたら些細な事でも把握できるように努めている(入居前面接や面会・ケアプランの作成時・更新などにて)。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は普段の関わりの中から、利用者様一人一人の心身の状態や医療から生活パターン・個々の得意な事やこだわりなどについて、会議や申し送り・ミーティングなどで話し合いなどを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様の状態や意向を把握した上で、利用者様の意向を中心に、ご家族の意向や職員の情報を交えながらケアプランを作成している。作成の際には、本人が「出来る事」「やりたいこと」を中心に作成している。		内容の充実を図るため、地道に努力を続けていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	意向などは常に変化するため、ケアプランの見直しは随時行うようにしている。計画期間の途中で変更する場合は、職員や利用者様・ご家族様と良く話し合いを行っている		より良い生活が送れるよう、随時プランを見直し、話し合いなどを行って対応していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録・受診記録・介護計画を主に実施したことなどを記録している。気づきなどについては、朝のミーティングの際に話し合ったり連絡ノートを活用している。		ただ記録するのではなく、使える記録に出来るよう検討していく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設にて他職種(作業・理学療法士や栄養士など)がいるため、非常にメリットがある。随時、相談等を行い対応できるように努めている。また医療機関の受診は家族が対応できない事が多いため、通院の付き添いを行っている。現在、通所サービス・ショートステイ事業は行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアを広報誌などで募集しているものの、殆ど応募がない状態である。今年度は地域の保育所をお願いをして、お遊戯会を見学させて頂いたり、地域の夏祭りの神輿見学をするなど、こちらから出向いていく方向で取り組みを行っている。		地域資源との協働なども、今後の課題であるが少しずつ進めていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域サービス事業者連絡会議などを通じ、他事業所のケアマネージャーと連絡を取りながら、協力し合っている。		継続する
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター(市直轄)職員が、運営推進会議に参加し、情報交換している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療連携支援体制の説明を行い、適切な受診について説明を行い了承を得ている。また、施設利用者の殆どの方が、かかりつけ医が併設の五日町病院であるため、24時間支援体制を受けられる体制である。		継続する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の五日町病院に精神科があり、認知症に関する診断や治療を受けている。		継続する
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の五日町病院の医療連携体制のにより、利用者様の普段の健康管理や緊急時の対応などの支援を受けている。また随時の情報交換や定期的連絡会議(毎月第4、火曜日)を通じて、支援体制を整えている		継続する
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主な入院先として、大和病院・六日町病院・斉藤記念病院が上げられる。連携体制はされているが、当方からの早期退院は、利用者様の状態と介護力などによって左右される事があり、現実には医療機関の判断に委ねている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りケアは、当施設では負担が大きすぎて、今の所実施できないため、入居の段階から、利用者様及びご家族様に十分に説明している。しかし、併設の五日町病院や介護老人保健施設にて、受け入れが可能で「希望があれば当法人が責任を持ってケアを致します」との旨を伝えている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	同上		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所などへ移られる場合は、基本情報やケアプランなど必要な情報提供を行っている。要請があれば、事前の情報交換・移転先の職員の面談などにも協力している。しかし当施設だけの取り組みだけでは、ダメージの軽減にも限界がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>介護は知識や技術だけでなくコミュニケーションや総合的な人間力で、質が左右されるものと理解している。職員皆で、在り方を話し合い、培って行きたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>今後も要望など言い易い環境や雰囲気作りに留意し、出来るだけ要望などにそえるよう対応して行きたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>今後もより一層、個性や習慣が優先される生活作りを目指して行きたい</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>ご自分で全て出来る方から、一部～全介助の方までいて、場面場面や利用者様一人一人の能力に合わせ、出来るだけ干渉をしないようし、その人らしさを心がけて対応している。理・美容院は本人の希望により、日時や場所を決めている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>利用者様の高齢化が進み年々難しくなってきてはいるが、個々の能力に応じ調理の手伝いから後片付けまで、本人の行なえる範囲内で出来る事をお願いしている。また、食事の際には音楽をかけたりして雰囲気作りに努めている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>今の所、飲酒も喫煙などを希望する方がいないのが、現状。希望があれば対応する用意はある。また個別のおやつや飲み物などは、健康や飲食の安全が確保できる範囲で、自由にして頂いている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限り、ご自分でトイレに行き排泄していただけるようにしている。紙オムツやバット・ポータブルトイレなども出来る限り使用しない方向で対応しているが、声掛け誘導が必要な方や、心身の状況(夜間は歩行状態が悪い・失禁などを気にされるなど)から必要な方は使っている。		個々にあった対応や物品を使いながら今後もトイレでの排泄を前提の対応を考えています。デリケートな部分であるので、慎重に対応して行きたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週6日の入浴日を設けている。順番は利用者様の体力や疾患・生活習慣などによって配慮しています。殆どの方が毎日入浴され、楽しみの一つとなっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間にしっかりと睡眠が取れることを第一にしています。年齢や体力・疾患などから活動と休息のバランスを考慮し、午後の昼寝をする方もいます。睡眠剤を使用する方もいますが、ほぼ全員の方が、よく休まれています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様一人一人の個性や習慣によりますが、生活の中で自然と役割などが決まっているようです。ムリがない程度に職員から勧めることもあります。「何かする事があれば…」と言って下さる方もいます。誰かが軽作業など始めると、他の方も加わってくる事が多く、楽しく行なっています		きっかけは職員側であっても、利用者様が自然な形で力を発揮できたり「役割」や「出番がある」などの意味の大切さを認識しながら、今後も対応して行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、利用者様個人にお金の管理をお願いしていますが、実際には様々な理由(認知症などにより、計算・支払い・残高把握・保管など出来ないなど)から、ご本人様では行なえず、ご家族様から管理を依頼される事が多い。現時点では9名中2名のみ金銭所持している。		職員側で管理する事が多いものの、金銭を出し入れすることにより、楽しみや張り・緊張感が生まれるなど社会生活の継続という観点から、すこしでも行なえるよう外出の際などで対応して行きたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的には、外出の制限はしていない。ご自分で散歩に行かれる方もいる。天候や業務との兼ね合いもあるが、日課などを通じて職員と一緒にホームの周囲に散歩に行くなど外出の機会を設けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様から希望があれば、お買い物やご本人様の地域に出向くなど、可能な限り対応しています。状況によっては、ご家族様に協力を依頼したり、相談するケースもあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方は殆どいませんが、時々、電話の希望する方がいてダイヤルを回して受話器を渡す事があります。また援助や用件を伺って職員が伝えることもあります。電話はリビングと事務室にあり、希望により使い分け、職員は席を外すよう心がけています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や親類の方などが気軽にお越しいただけるよう、雰囲気作りなどにも配慮しています。訪問時には、殆どの方が、それぞれの居室で過されたり、リビングで他の利用者様とも、お茶を飲まれながら話しをされる方もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する行為自体を禁止し、宣言文をホーム内に掲示している。研修があれば参加したり、どのような行為が拘束に該当するかなど、ミーティングの際に話し合ったりしている。実際にその様な行為はない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止やセキュリティの観点から、戸を開けると音の鳴る物は取り付けたり7:30～20:00は玄関を施錠している。基本的に利用者が外に出ることを制限しておらず、声掛けも最小限度にしている。出かける際は、見守りをしたり、どのような行動(パターン・どの方向に行きやすいかなど)をするかなどをつかむ事により事故防止に努めている。		認知症などによりふらりと出てしまう方については、分からないように付いて行ったりとしているが、疲れて途中で戻れなくなったり戻るのが拒否するなどして対応に苦慮するケースも過去にはあったが、今後も鍵を掛けない対応を続けていく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の基本情報などから基礎疾患～生活パターン・性格などを職員同士で情報を共有しながら傾向など掴むようにしている。プライバシーに配慮しつつ、日中の職員配置も目が届きやすいよう業務調整したり、夜間は基本的に1時間毎の巡回も、利用者様の状態などに合わせ随時行ったりしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り扱いに注意が必要な物は、生活と密接な関係にあり職員の中でも意見が違うところもある。利用者様の状態に合わせて、危険が及ばない範囲で、職員と話し合いながら対応している		生活感と事故防止とのバランスに配慮しながら対応していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様の状況は、日や時間によって刻一刻と変化するため、リスクの高さ・起こりやすい場面や頻度を予測しながら対応している。マニュアルを見直したり、転倒・誤嚥・誤薬や火災などが起きた事を想定した訓練や研修を年数回などを行っている。		いつ、事故や災害など起きるかなど、職員の不安は尽きない。繰り返し訓練を積み重ねたり研修に参加をして“いざ”という時に対応できるよう備えることにより、不安を少しでも軽減したり解消できるよう努力を続けたい。完全に不安を取り除くことは出来ないが、事故や急変時に対応できるよう、併設施設の協力体制は出来ている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	同上		同上
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、その都度設定を変えた訓練を行っている。また立地条件から併設施設との協力体制は出来ている。		同法人の支援だけでなく、地域消防団との連携体制も必要と考え、整えたいと思っている。運営推進会議にて検討中。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に、当ホームでの生活上のリスクについては説明している。概ね、ご理解を頂き、ご本人様の意思が尊重されたケアに繋がっているものと考えている。変更時や必要時はその都度話し合いや説明を行っている		今後も十分な説明をし、協力してより良い生活が出来るよう努力していく
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定や食事・排泄・顔色・表情や体の動きなど状態に留意している。「いつもと何か変だ」とか1週間・1ヵ月とかの中で、職員が感じた変化をミーティングなどのときに、伝え合い情報を共有し、受診等も含めた対応を決めている。		気付きは職員の経験や勘によるところが大きいものの、ちょっとした変化に気付けるよう観察力を養う必要がある。ベテラン職員の視点や経験談・日々の情報交換などを大切にしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理は、基本的に職員が行っている。個別に管理し薬情報も付けて、内服に変更などがあった場合、記録を残し薬袋に赤字で注意書き書き込むなど間違いが起らないよう工夫している。配薬時は、マニュアルに沿って対応し、服用後に異常があった場合は医療連携先に連絡し対応したり、受診を行い医師に相談などしている		高齢者は薬による影響が大きく個人差もあるため、今後も取り扱いに注意していく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ自然排便が出来るよう食事や運動・睡眠、水分摂取が十分取れるよう職員が対応している。しかし身体機能の低下や処方薬の関係で、下剤等での対応が必要な利用者様もいる。その方に対しては個別に状態や傾向を把握し、薬に使用量を最小限になるよう対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者様によっては、見守りや指示・一部介助など必要な方もいるため、必要に応じて援助をしています。歯牙や義歯に不調が出た場合は、隣接する歯科に受診できる体制は出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食事量を毎日確認し、記録に残し健康管理などに役立てている。また年2回の栄養指導を行い、バランスやカロリー、調理の工夫、メニューの内容などをチェックして頂き、より質の良い食事が提供できるよう努力している。		雑誌や併設の施設のメニューなどから参考にするなどして、より家庭的で質の良い食事の提供に努力していく。また併設施設に管理栄養士がいるため随時相談でき非常にメリットがある。年2回の指導も継続して行きたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症への対応や取り決めなどについては、同一法人の感染対策委員会が作成したマニュアルに沿って行っている。当ホームとしては年間を通じて手洗いうがい・消毒に力を入れている。また、地域の感染流行の情報に留意し、職員の持込みが起こらないよう同居家族の状態も情報も提供してもらっている。感染症に関する内外の研修にも参加している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々の衛生管理は、ホームのマニュアルに沿って行っている。食材の管理については、毎日買い物に行き新鮮な物を使用し、使い切るようにしています。冷凍食品や出来合いのものは、あまり使用しない方向で対応しています。		職員の努力の見える部分であり、継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	立地条件などから、施設という感じは否めないが、季節に応じた草花を飾ったりして、訪問しやすい雰囲気にも努めている。		今後も親しまれる雰囲気作りのため、一層の工夫や努力をしていく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室やリビングからは、近くの田畑や山が眺望でき、季節を感じながらゆっくりと過ごす姿が年間を通じて見られる。リビングなどの共用空間では声の大きさや忙しく動き回らないなど、言動などに留意しながら、居心地の良い空間・雰囲気作りに留意している。		共有空間は、今後も利用者様に自由に使っていただけるよう配慮していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特にその様な場所や空間はないものの、利用者様が自然な形で椅子やソファ、個々の居室などを利用して、特に不自由などは感じない。また時々、事務所まで来られ職員と雑談される方もいます。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活用品や使い慣れた物の持ち込みの制限はしておらず、むしろ勤めているが、ホームで用意したものを使われている事が多い。特別不自由を感じるようには見えないが、画一的な感じがある		今後も、私物の持ち込みは勤め、希望や要望に柔軟に対応する姿勢を続けていく
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏場は、リビングや廊下の窓を開けて、できるだけ自然な風を取り入れるようにしている。冬場は1日2回時間を決めて換気を行い、室温や湿度などが適正になるようこまめに調節している。また気になる臭いは、利用者様や職員からも報告はないが、留意している。		今後も継続していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー構造で、必要と思われる所には手すりなどを設置している。個々に身体機能に差はあるが、杖やシルバーカー、手引き歩行など個々に合わせ対応しながら、安全かつ自由に行き来できるよう対応している。		心身の状態に合わせながら、できるだけ自立した生活が送れるよう支援していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	普段の生活などから、戸惑いや出来ない事・失敗しやすい状況などを予測・把握し、声掛けや誘導などで行えるよう対応している。失敗など多い場合は、行えない理由やどのようにすれば行えるかなどをミーティングの時間などに話し合い、対応の工夫に勤めている。時には管理者や主任、併設の他職種の意見を参考にしている。		職員の関わり方や工夫次第で、利用者様の状態や状況が変わってしまうことを念頭に、あらゆる視点や職種からの意見を参考に検討し対応していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先やベランダには花などを植えている。時々、ベランダの花を見たり椅子を出し日光浴をしたりして、利用者同士の交流の場ともなっている。建物の裏側には洗濯物も干す場所もある。		多少、車などの行き来があるため注意が必要だが、立地条件から足場も良い。今後もホーム周囲のスペースも有効に活用していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個性と習慣を大切にしながら、家庭的雰囲気の中で、ゆっくり・のびのび楽しく生活して頂き、「健康で元気に長生きしてほしい」と願っています。そのため、散歩や個別の役割などを本人様のペースで行っていただき、可能な限りその人に合った1日が送れるよう利用者様個々の能力や状態に応じた援助を心掛けています。また併設の施設には医師や看護師がいて、24時間いつでも医療連携体制が行える体制になっています。他職種（作業療法士・理学療法士・栄養士・薬剤師など）にも、随時相談等が出来て多角的な対応が行なえるメリットがあります。